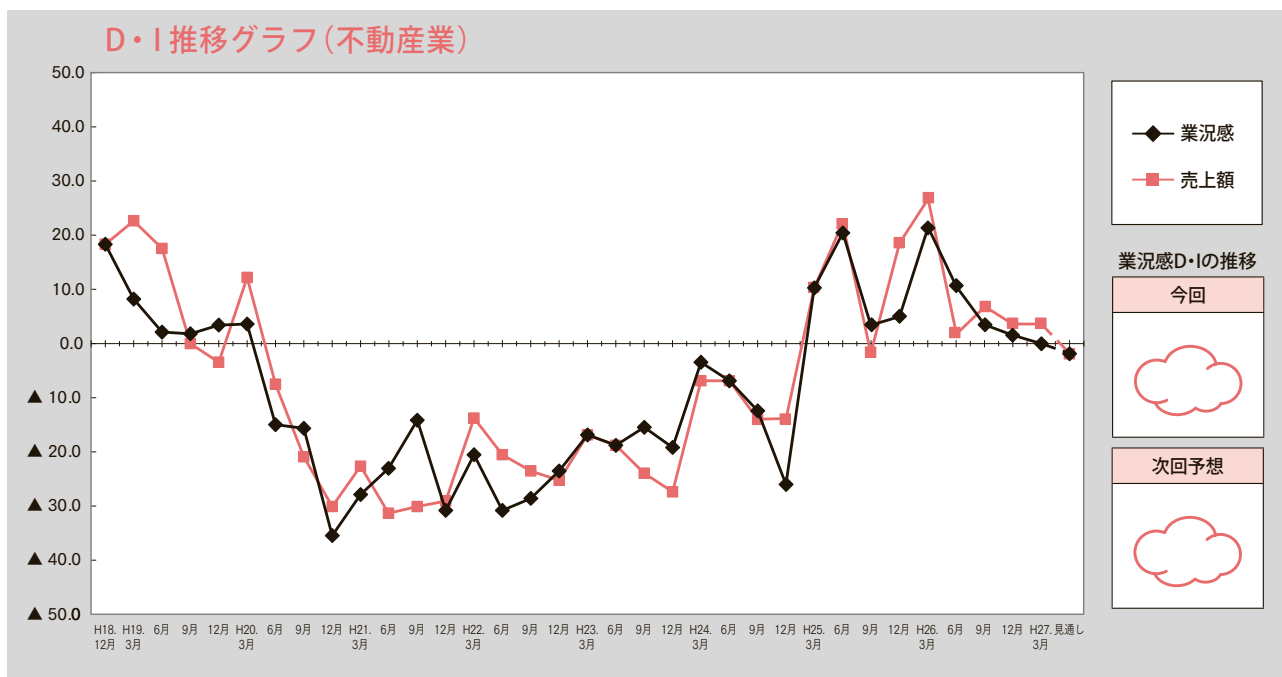


不動産業

Real estate industry

業況感悪化



1 今期 (平成27年1 - 3月期)

今期の業況感は0.0となり、前期から1.8ポイントの微減。その他の項目も、10ポイント超悪化した販売価格D Iを除けば小幅に上昇・下落している。

また、収益D Iは、販売価格が上昇したものの、売上額の前期水準維持、仕入価格の減少により前期より5.4ポイント改善している。在庫も不足感が解消され、適正值となっている。人手についてはやや不足感が上昇した。

2 来期の予想 (平成27年4 - 6月期)

来期の業況感は、▲1.8と今期から1.8ポイントの悪化予想。5期連続でD I値の悪化が予想されている。

また販売価格、仕入価格はいずれも悪化、売上額も減少する見込みとなっていることから、収益D Iも悪化の予想となっている。在庫については適正值を維持。人手についても不足感がやや解消される見込み。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H26. 3月期	H26. 6月期	H26. 9月期	H26. 12月期	H27. 3月期	来期見込み
業況感	21.4	10.5	3.4	1.8	0.0	▲ 1.8
売上額	26.8	1.8	6.8	3.6	3.6	▲ 1.8
収益	19.6	0.0	6.8	▲ 1.8	3.6	▲ 3.6
販売価格	7.1	0.0	0.0	12.5	▲ 1.8	▲ 7.1
仕入価格	▲ 12.5	▲ 5.3	▲ 10.2	▲ 8.9	0.0	▲ 1.8
在庫	▲ 7.1	10.5	▲ 1.7	1.8	0.0	0.0
資金繰り	12.7	▲ 1.8	5.2	▲ 3.6	▲ 1.8	1.8
人手	8.9	1.8	3.4	0.0	5.4	3.6
設備状況	-	-	-	-	-	-

業況調査メモ

農協や県庁移転などでにぎわいが失われていた鹿児島駅周辺の再開発がよいよ動き出した。鹿児島市の今年度当初予算を見ると、約2億円をかけて駅舎や駅前広場、線路をまたいで東側から西側に渡る通路の基本設計などに着手するほか、約2万5000㎡の駅隣接地では公園や屋根付き・屋外イベント広場の整備工事に約9億円を計上し、着手する。折しも今年6月にも尚古集成館など磯地区の明治日本の近代化産業遺産群が世界文化遺産に登録されるとみられる。数多くの史跡を有し、桜島を間近に望み、鉄道と市電、桜島フェリーなどの交通結節点でもある鹿児島駅周辺はこの数年で大きく変貌しそうだ。